

# 令和3年度 第1回高知県スポーツ振興県民会議

## 競技力向上部会 議事要旨

日時:令和3年8月26日(木) 13:30~15:30

会場:高知城ホール 4F 多目的ホール

出席:部会員7名が出席(別紙のとおり)

議事:(1)令和3年度スポーツ施策の進捗状況について

(2)Ver.5に向けたスポーツ振興の強化ポイントについて

(3)その他

### 1 開会

### 2 議事

#### (1)令和3年度スポーツ施策の進捗状況について

●事務局から議事(1)の説明を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

#### (矢野 部会長)

○資料2、「くろしおキッズプログラム」の知的プログラムとはどんなものか。

#### (三谷課長)

●競技の体験だけではなく、コミュニケーション能力を高めることなども大事ですので、競技の体験以外のものをプログラム化して県外から講師を招いてご指導をいただいている。他にも、怪我や栄養に関して、学んでいただいているようなプログラムです。

#### (矢野 部会長)

○スポーツ種目だけではなくて、それ以外のプログラムの関係を総称して知的プログラムという事ですね。例えばラグビーは、西川部会員が関わっているタグラグビーなどはやってはいないんですか。

#### (西川 部会員)

○くろしおキッズのラグビーのプログラムは私がやらせてもらっていて、今年は6年生で2回で4・5年生で1回やらせていただきました。ここにモチベーションの低下って書かれてるんですけど、ラグビーに関しては沢山の方が参加してくれて一生懸命やってくれましたので、コロナの関係で親御さんが心配するところが少しあったと思いますが、コロナの影響で子ども達がモチベーションが下がったとは感じなかった。

○また、タグラグビーをやりながら、ラグビーボールは丸くないので、それを生かした運動アジリティであるとか、そういうのを入れ込んだりしています。あとは集団スポーツ

ですので、コミュニケーションをいろんな形で子ども達がとれるようなプログラムにして、それを最終的にはゲームの形にもっていくという形でやっています。

**(矢野 部会長)**

- 西川部会員がやっているラグビーは、いま県の中でいろんな小学校からのニーズがあって、先生に来てほしい学校が沢山あるんです。身体接触をすることが今、コロナ禍において敬遠されている中、ラグビーだったら直接の接触がないので、小学校で遊びのプログラムを作るときにすごく有効なものになるんじゃないかなというふうに思っています。ですから、そういう機会を増やしながら、裾野を広げてその子たちが今度ラグビーの競技に入っていけるような、そんな環境づくりが、コロナ禍だからこそできたら良いだろうなという風に感じたところでした。

**(竹島 部会員)**

- 全高知について、全高知チームの競技も増えて、課題も増えてきていると思いますが、一方的にこういうことをやってるんだってことしか伝わってこない。机上では見えてこないなので、競技団体の方たちの意見も少し入れていただければ、どういう風に全高知をやっているのかが分かるので、お願いしたい。

**(三谷課長)**

- 県スポーツ協会とも相談しまして、実際に活動されている方のご意見も、収集できるようにしていきたい。

**(竹島 部会員)**

- 9ページにはスポーツ協会とスポーツ課によるヒアリングっていうのを書かれていますので、どういった内容かを少しずつでも知らせて頂ければありがたいと思います。

**(三谷課長)**

- 本日欠席されております、小林部会員と松下部会員に事前にご意見を伺っておりますので、ご紹介をさせていただきます。

**【小林部会員】**

- ・ 県内でパラスポーツをする機会や観る機会が少ないのが現状。
- ・ 県内の大会を四国大会に広げる手立てもあり、積極的に他県に働きかけるなどし、大会を3年ほど継続すれば、競技者や審判のノウハウ等をはじめ、競技力の向上に繋がるだろう。
- ・ 特別育成強化選手の育成・支援については、選手側の課題もあり、税金での支援という認識が必要だと思う。支援を受けながらのスポーツ活動で、社会への還元を意識することも必要。
- ・ 一般の協議団体についても、自団体に資金集めをする活動も必要。
- ・ 設備整備については大事であるが、障害者スポーツに関連してはまずは競技者を増やす

ことが重要。

- ・ パラスポーツに取り組む認定校などを作ってはどうか。例えば A 校は車いすスポーツ、B 校はボッチャ等として、学校主催で、練習会などに取り組むことはできないだろうか。

#### 【松下部会員】

- ・ 中学校でスポーツに触れることは非常に重要で、生涯スポーツに繋がるので、取組は必要である。
- ・ 部活動は多様化しており、オリンピックの新種目等も、新しく部活動する要望も上がってくる可能性もあるが、学校現場としては、部活動を増やすことは難しい。現状の部活動を継続することが精一杯な状況。
- ・ 地域の受け皿としての合同部活動の取組については、県の大会に出られる事を期待するが、地域で発生したチームが県の大会に出る事については、全国的な動きになっていない。
- ・ 外部指導者の活動が進んでいるが、部活動指導員（引率が可能）については、これまでの部活動支援員（引率ができない）が、比較的仕事との両立ができることから、活用しやすかった。
- ・ リモートの活用については、初任者研修や会議でもリモート対応が増えており、期待感はある。ただ、リモートでの大会配信については、個人情報や SNS の拡散等の課題はあるが、リスクがなくなればありがたい。

#### （下坂 部会員）

- 私は専門が剣道です。剣道は全高知の 9 つの中の 1 つに選ばれておりまして、取り組んでいる状況です。特に成年の女子のこれまでの実績につきましては高知国体は優勝、その後 4 位、その次が 5 位ということで、やはり強化をすることで成果が上がるのが分かっている、全高知の取組で大阪の石塚先生に来ていただき、県のみんながその先生の指導を仰ぐということで全高知の強化普及を図っているところです。何が良いかというと 1 人の先生の指導で、子供への指導、指導者の指導、同じ方向性で指導ができるということです。今回のブロック大会では、少年女子が団体の本大会に出場できることになりました。剣道に大事な技術、有効打突というものが確実に身につけてきていることと、SSC についても筋力トレーニングは選手たちにとってはすごく有効で定期的に活用しています。

#### （矢野 部会長）

- 渡辺部会員、今回このインターハイの中でもカヌーが、県勢初めてカナディアン種目において 1 位を取られました。ぜひ、こういう結果になった具体的なその理由や、可能性をお話いただきながら運動部活動の指導や競技団体での選手育成に携わっている立場から、これからの部活動における競技力向上に関する課題などについてお話しいただけたらと思います。

#### （渡邊 部会員）

- 先ほど紹介していただきました西土佐分校の福島選手が今回インターハイで1位をとることができました。これまで全高知として、いろんな方々と協力をして県下でまとまって強化を進めることが出来た結果であると考えています。ひとつは、高知県は広いので、各学校の部員も少人数で学校の強化だけではなかなか難しいということもありまして、土佐町、高知市、須崎市の3拠点を中心に週末に集まったり、合宿を重ねることで指導者も協力をして、上を目指す高中間層、それから初心者等々に分けて育成することができたことも大きかったと思います。
- また、県立5校でずっと活動をしてきた中で部員数の減とか、色々な問題が出てきましたけど、昨年の4月から明德義塾高校にも1つ部が出来まして学校が1つ増えたり部員が増えたりということもあって活気が出てきたこともあります。切磋琢磨しながら県全体で競技力向上に繋げているところです。
- 活動状況としましては拠点を土佐町・高知市・須崎市の3つに絞り、整備を進めていただいたこともありまして、それぞれがジュニアチームを立ち上げて高校まで強化がずっと繋がっているとも言えると思います。また、スポーツ科学センターの体力測定等も利用させていただいていますが、コンディショニングサポートも3年前から協力してもらい、選手がこれまでは自分の体に興味もなく、ただ言われたことをやる状態から、自分の体の特徴であるとか、ケアの仕方であるとか、自分がどういう努力をすることによって競技力が向上しているか等個人個人に対するメニューも立てていただいていることなどが競技力向上につながっていると思います。

部活動の問題は、先程中体連の先生からのお話もありましたけれども、部活の顧問を引き受けてくれる先生も少なくなって部の存続が非常に厳しい状況です。また、コロナの影響もあって生徒のモチベーションの維持ができなくて辞めてしまうことも、実際には起こっているの、なんとかつなげていかなければならないという新たな問題も出てきています。

**(矢野 部会長)**

- ありがとうございます。今回、インターハイで優勝できた福島さんであります、この1位になったことを一言でこの成果じゃないかっていうことを渡邊部会員さんの中で言うとしたらなんでしょうね。

**(渡邊 部会員)**

- やっぱり全高知の取り組みが大きかったと思います。各顧問では対応しきれなかったところを県全体でまとまって指導をフォローしていたというのが、大きいかと思います。

**(矢野 部会長)**

- ありがとうございます。この浦ノ内のカヌー場は世界に誇れる良いカヌー場だと専門家のみなさんが言われているので、是非ここが日本の聖地みたいになっていろんな指導者が集まったり、いろんな合宿が行われたりする事が出来ればそこに地元の人たちが関わって、一流どころの練習や考え方、あるいはトレーニング方法を、肌で感じる事ができるといいですね。この形が本県にとって理想的な形なんじゃないかと思います。

こっちから行かなくても来てくれるというのが1番コストパフォーマンス的にも高いという気がします。本当に今回の快挙は我々にとってもすごく嬉しいことだと思います。次に、このスポーツ科学の領域、選手の指導や医科学という点から、井上部会員さん、スポーツ医科学の活用ですとかSSCの体制のことについて少しお話しいただければと思います。

**(井上 部会員)**

- スポーツ科学センターというすごく良い施設があるんですけども、まだまだ認知度が低いということ。全高知として取り組んでいる競技団体は利用してると思うが、それ以外の団体は知らないという現状だと思います。コンディショニングにしても私たちトレーナーの数が少なく、1人で掛け持ちをしたりという状況になってます。1人で現場に行っても、1人ではきついと感じています。トレーナー同士でも話し合いをして、もっと高めていかなければならないところでもありますが、せっかくこんないい施設があるので、人材は少ないですけど、どんどん現場に出ていけたら良いと思いますが、コロナでなかなか行けないのが現状です。

**(矢野 部会長)**

- 井上部会員さんが言われたようにSSCに対しての期待がすごく高まっていて、更にその知名度を上げてニーズを増やしてというところではあるんですが、スタッフの数に限りががあるので、なんとか増やしてもらえないだろうか。そうすると望むような活動がずいぶんし易くなるし、井上さんのような現場でバリバリ活躍されている方の負担も大分減ると思います。コロナで少し停滞している時に、これからの計画を、ぜひもう少し具体的にしてもらいながら、どこにどういう人材が必要で、どういうところの人員を増やすべきかということを検討していただけたらと思います。

**(三谷課長)**

- SSCの体制につきまして、センター長の岡本さんがいらっしゃいますけれども、日頃からスタッフの体制の強化というところも非常に数多くお話を伺います。予算的なことなどもありまして、どこまで強化ができるかというところはありますが、非常に大事な部分だと思っておりますので、県のほうでも検討して行きたい思っております。また、SSCスタッフだけでなく、サポートスタッフとしてですね周りのトレーナーの方にご協力をいただいているところですが、理学療法士さんのご協力も非常に重要ではないかということも以前にお話を伺ったところですので、そうした幅広い人材の方にご協力をいただくことで、医科学のサポートを充実させていきたいということも合わせて考えていきたいと思っております。

**(矢野 部会長)**

- それでは岡本部会員さんにお話をいただききたいと思うんですが、中央競技団体や県競技団体をまとめる立場にもおられる岡本部会員さんですので、本県の競技力向上に向

けて課題とを感じる点ですとか、指導者育成の問題、さらに SSC のセンター長という立場からスポーツ医科学の活用についてご意見をいただければと思います。

**(岡本 部会員)**

- まずは中央競技団体として、高知県がどういう風に強化をしていくかということなんですが、自分が感じるのは指導者をどうするのか、大きな課題ではないかと感じております。例えば私は6月にJOCにも入らせていただきましたけど、JOCは国際交流ということで、中長期的な指導者の育成ということで、1年海外留学、2年長期留学という指導者育成を行っております。そういったことを本県も行うことによって、高知県に帰ってきた指導者が活躍する。ちょっとレベルが高いですがそういったことができればすごくいいのではないかと思います。例えばオリンピックのアカデミーコーチ、高知県でどれだけいるかという和多分いらっしやらないかなと、日本ソフトボール協会でもたった2人なのでオリンピック競技でコアスポーツをやっている監督がとるような資格です。8週間程度みっちり指導されますが、そういったところに高知県から誰かが入っていければ、指導力もどんどん良くなるのではないかと思います。
- JSP0の指導者資格もコーチ4までありますので、私もコーチ3までしか持ってないですが、コーチ4まで持つことによってスキルアップしていく、そこまでの高いレベルを望むというところが大事ではないかなというふうに感じております。それによって子ども達や一般の選手たちがもっとやる気になってくると思いますので、やはり指導者を育成することが大事ではないかと考えております。
- SSCに関しては、アスレティックトレーナーのスタッフが精一杯、高知県の競技力を上げるためにトレーニングサポートを行っております。このトレーニングサポートができるスタッフを是非あと1名とか入れていただければ、さらに競争力が上がるのではないかと考えておりますし、施設がちょっと手狭になってきましたのでもう少し広いところにトレーニングルームでもあれば、測定とトレーニングサポートが効率よくできるのではないかと考えております。また、どんどんとSSCを使っていただくために、今現在8時半から18時までの運用時間ですが、今後は21時までの運用も検討しなければならないと考えております。

**(矢野 部会長)**

- 竹島部会員さんからトップ選手そしてオリンピックとしての立場から、オリンピックや県出身選手の受け入れについて、大学の指導者として携わってこられている立場からご意見いただきたいと思います。

**(竹島 部会員)**

- 私達の頃は根性と忍耐の時代で、今はSSCとか、いろいろ科学的な事がすごく進んでいます。だから選手寿命がすごく長くなっているの、バレーボールをやって、また次の種目に移るとか、そういうことも可能な時代になっていると私は感じております。私の頃は、競技者として見ると大学に行くのは半分遊びに行くような感じでしたので、私

はすぐ高校卒業して実業団の方に入りましたが、今は大学である程度、自分の将来を見越して取り組んでいる。実業団に進んでも次に教員の道に進む方もいますし、そういうトップに近い位置でやられた方が指導者資格を取って指導するといったサイクルがうまく進んでいる。今回 2020 東京オリンピックに出場した本県の宮本葉月さんは恩返しのために高知に帰りたいといったことも言われてまして、その時に高知県の受け入れ体制がもう少し整っていただければいいと思います。有望な選手が進学して高知へ帰ってくるという例がすごく少ないし、これからはもっともっと高知県からそういう女子のオリンピックを輩出して行くためには、受け入れ体制の充実が必要ではないか。いつも企業の方に受け入れてくださいとお願いしますが、企業も厳しいところがあるので、飛込みの瓶子さんは教員として県外から来られてますが、県教委でも、受け入れる枠を少し広げていただきたいと思うのと、やはり企業が団体チームを待つのは大変なので、個人個人で頑張ってる選手には企業の方ももう少し窓口を広げて、指導者がうまく高知に帰ってこられるような体制をとってもらいたいと思っています。

**(矢野 部会長)**

- 最近のアスリートの雇用っていうところでは1社が1人を雇用するのではなくて、3社ぐらいが1人をサポートするっていうようなやり方も出てきてます。竹島部会員さんの話のとおり高知での受け入れ先がすごく重要だと思います。県の方でも本県出身の方が戻って来やすく、そしてそこに根を張って次の世代を育てられるような環境というのを作ってもらえないだろうかと思うところです。  
それでは次の議事の2に進みたいと思います。

**(2)Ver.5に向けたスポーツ振興の強化ポイントについて**

- 事務局から議事(2)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

**(矢野 部会長)**

- 資料の3のところ、スポーツにおけるデジタル化の推進というところがでてまいりました。国の政策としても文部科学省なんかを中心にDXという言葉が最近よく使いました。DXというのはデジタルトランスフォーメーションという言葉で、ITを駆使してできるだけいろんな状況をクリアしていこうというような取り組みです。これを本県に当てはめて考えると、三谷課長が言っていたようなスポーツの中でデジタル化ができるところはどんどんデジタル化をしていきたいと思いますということだと思えます。本県の特徴としては中山間地域がたくさんあって都市部までの移動距離がかなり長いこと。実技はどうしようもないですけど指導者養成だとか、あとはその知識をやりとりするような場面だとリモートで対応することがきっとできると思うので、積極的に進める。しかし、対面でなければ伝えられないことは絶対にはあると思います。ですからそれをなくさずに両方をうまく活用する、その特徴を活かせるものをしっかりと把握しながら残していくという方向性を間違わないでやっていけたら、これはさらに発展が望めるだろうなと思います。

コロナのフェーズが上がったので大学もオンラインの授業に切り替えています、なかなか教育効果が上がらない部分もある。先ほど下坂部会員さんの話にもありましたが、剣道の全高知チームで指導してもらっている大阪の石塚先生は、日本のカリスマなんです。全日本選手権や世界大会の覇者でもある人がわざわざ高知に来てジュニアから一般まで全てに稽古をつけてくれる。この価値というのは実際にそれを受けた人じゃないけどわからなくて、デジタルでは対応できない。対面とオンラインの得意なところを把握しながら推進したら絶対良くなるだろうと思います。

また、こうちスポーツ NAVI あるいはスポーツ課の SNS の利用が十分に伸びていないというふうに書かれてありますが、高知県スポーツ協会とかともリンクを貼ったりしてるんですか。

### (三谷課長)

- はい、それはご協力いただいています。

### (矢野 部会長)

- それでも伸びない事については考えないといけないですね勿体ないと感じます。他の部会員さんどうでしょうか。先ほどのバージョン4の強化ポイントに関することでも結構です。

西川委員さんでしたら運動部活動の指導や競技団体での選手育成に携わっているという立場から、競技人口の拡大や選手の育成についてお話しいただけたらと思いますが、このバージョン4の強化ポイントの中にも関西圏を中心とした誘致活動のところでラグビーがたくさん出てきてます。この辺りも含めてご意見いただけたらありがたいと思います。

### (西川 部会員)

- 昨年のこの会でも話をさせていただいたんですが、今、県内ではラグビーの認知度はおかげさまでワールドカップの影響もあって、高くなっていると思いますが、高知県のラグビーの状況というのを知ってもらっているかという、それはまだうまくいってないと感じます。今年もトップリーグの大会を開催してもらいましたが雨の中沢山の方に来ていただいたんですが、単発で終わってしまっている、本当に根付かせていくには県内の掘り起こしを頑張っていかなきゃいけない。しかし、そういった活動に携わる人材の頭数が少ないというのが課題になっています。個人情報壁はあるかと思うんですが、例えばここ6~7年くろしおキッズにも関わらせていただいて、例えば、くろしおキッズの子ども達が、中学、高校に上がってどういった種目に進んでいたのかとか、スポーツをやめてしまったりとかいうケースがあるんじゃないかなと感じており、そういう追跡調査やアフターフォローのところまでできたらとなというのがあり、中学進学後もアプローチがかけられないのかと思います。そういう情報をいただいたり、いう追跡の方法がないかなと感じています。それと同様に、高校から県外の大学に行った

生徒がどうしているのかとか、県外の大学から就職をする時にどうなのか、就職先をいくつか構えられるのがベストですけども、そういった働きかけをもっともっとやる必要はあるだろうなということも思います。ラグビーの反省なんですけど、ある学校が強い時に所属していた生徒が県外の大学行って、知らない間に学校の先生で戻ってきてくれたんです。それをラグビー協会としてきちんと把握していないことがありました。本県選手の追跡調査などはもっとうまくできないかなっていうのを特にくろしおキッズでは体系的にできないかなというのが1つあります。今回パラカヌーに出てた小松選手は僕、高校時代に教えてたんですけど、彼女の場合は、障害による種目の転向ですが、競技ごとにピークの年代が違うと思うので、年代が重ならないところで種目を転向していくこともありそうな気がします。ラグビーだけ見ていたらラグビーで終わってしまうので、ラグビー引退した後に別の種目で活躍できる人が出てきても不思議じゃないので、それを高知県として系統立てて見ていって、こういう選手いますよ、今年引退しましたよ、じゃあ県内にいるんだったらこんな競技にチャレンジしてはどうでしょうか、というようなアプローチをかけていく形ができないかなと思います。それは指導者も含めて系統だった方法がくろしおキッズなどからも続けてできないかなと思ったところです。

ラグビーの合宿誘致に関しては、高知県の自然であったりとか、ありとあらゆるものをアピールしてやっていると、評判は良かったりします。春野の芝生に関してはもうすごく評判もいいですし、いろんなところで言われるのは、雨が降った場合の対応です。室内練習場なんかをもう少し整備していただけたら、受け入れる機会が増えていくかなというふうに思います。

#### (矢野 部会長)

- いい選手のデータベースみたいなのをずっと更新していくっていう作業は今、人材不足という中では重要なことかもしれませんね。能力の高い人は他の競技でも能力を発揮する可能性もあるから種目の転向というのは何も無茶な話ではないんだということを伺ったことがあります。ですから、この選手の動向をできる限りデータベース化しておくことも大事なことも知れません。

委員の皆さんから、総合的なことに関して、ご意見や要望とかをいただければと思います。

#### (竹島 部会員)

- スポーツ医科学のさらなる活用の全高知チームの一覧表に主な意見も書いてあるんですけど、令和3年度はコロナの関係で仕方がないと思うんですけども、カヌーで成績残したのはSSCを利用させてもらえもらえているからで、数字に顕著に現れていると思います。SSCについては、PR不足ってことはないでしょうか、手狭になっているということも聞くので、連携が悪いのか、活用が極端に少なくなってる競技団体もあります。また、必要性を感じてないというのは私は理解できないんですけどもその点どうでしょうか。

(三谷課長)

- 必要性を感じていないというところは一部の意見でございますけれども、この数字につきましてはですね、もっともっと伸びていただきたいというところは正直なところですが、今年度に関しましては、ちょっと時期の問題なんかもありまして、これから来年度に向けての強化の時期っていうことに入っていきますので利用も伸びてくるものだという風にとられております。それにしても、もっと利用数が伸びていただきたいというところがありますので、これは競技団体だけの問題ではなくて、私どもの方も SSC 側も、もっと使いやすいメニューでありますとか、事例などを紹介していくとか、そういった工夫も必要だと思っております。今いろいろ議論をしているところですけども、現段階ではとにかく競技団体とか指導者の方に必要性を理解していただくためのディスカッションの回数も増やしていかなければいけないと思っております。

この春からもですね何度か競技団体の方と接触をして、いろいろとご意見を伺いながら見直すべきところは改善してきていますので、そういうところは引き続き地道にやっていく必要があると思っております。

(竹島 部会員)

- 競技人生が長くなると思うので、是非進めていっていただけたらいいと思います。

(矢野 部会長)

- 他に意見ありませんでしょうか。

(渡邊 部会員)

- 最後にありますオリンピックパラリンピックのレガシーのことにに関してですけれども、カヌーでは、オリンピックの事前合宿でチェコの選手に来ていただきました。大会直前の合宿では直接交流ができなかったんですが、その前の事前合宿を含め、非常に刺激を受けることができました。会場もすごく整備をされ、その会場で全国中学生カヌー大会を誘致しようとしたりとか、また、カワウソカップといって小学生のカヌー大会の開催とかに繋がっています。せっかくこれだけの国の方と交流をしたという経験というのがありますので何とかこの成果を続けていきたいというふうに思っています。特にカヌーは協定書を結んでジュニアの交流ということもやっていますが、なかなか協会だけでは交流の継続が難しいこともあるかと思えますし、他の競技の方でも自己負担はなかなか難しいところもありますので、なんとか強化費等も活用してこの交流が続けていけたらなと思えます。

(下坂 部会員)

- 剣道は年配になってもできる競技です。剣道には理念があつて剣の理法を通して人間形成を図るといった目的に向かって剣道をやっている文化があります。

運動というのは、生きるために重要なものだと思いますので、子どもの頃から教育し

ていくってということがすごく重要であろうと思っています。なので全般的な前半のお話の中にあつた知的プログラムの中に、メンタルトレーニングやプラス思考の考え方を入れて行くとか。スポーツをするうえで困難は絶対あるので、その時にどう乗り越えられるのかというような考え方といったものなどもプログラムに組み込んでいただけたらいいなと思います。

人口減の中で、人を育てるといふようなところが大事だと思うし、やっぱりスポーツを通して人間性を高めていくといふような考え方も大事であろうと思います。なんのためにスポーツ（運動）をするのか、その目的をスポーツ（運動）をする時に指導者が伝えられるようにすると、その種目の本質にもつながることにもなると思います。それから池選手のお話が出てきていましたが、横浜中学校の教員の頃に池選手にも来ていただいて一緒に車椅子ラグビーを体験し、そして池選手のお話を聞いたという経験があります。そこで目標を持つことを学びました。どんな状況になつても目標を持つことは自分の夢を叶えることにつながるし、元気になれるといふような事をお話いただいて子供たちの目がすごく輝いていたので、このような話は大事だなといふことを感じました。

また、こうちスポーツ NAVI については、選手のスポーツに対する思いや、自分の人生が変わつたといふ体験内容などをウェブサイトの中にのせるなどの工夫をすると見る人も増えると思います。

#### (矢野 部会長)

- 最後にちょっと1つだけお願いなんです、参考資料にインターハイと全中の成績があります。実はこの水泳の飛び込みの選手、中学生も高校生もすべてメンタルサポートをしています。優勝している選手がいますが大事なほうまくいかなかった選手だと思うんです。なぜ上手くいかなかったのか、今後どうしたらいいのかという辺りを継続的に選手に寄り添いながらサポートできるシステムをつくってほしい。また、飛び込みの山崎佳蓮さんはインターハイ2番なんです、抜群に強い1番の子がいるんです。この子をなんとか抑えないとパリオリンピック出場はなかなか難しいんです。だから、目標はこの選手を超えること、そうすると多分宮本さんの次にこの山崎佳蓮さんが次のオリンピックになると思うんです。更なるキャリアを形成することを、みんなの力で実現させようといふような、そういう体制をこれからもぜひ継続的に作ってほしいというお願いがあります。結果になつてなくても力がすごく上がってきたなど実感する場面はすごくたくさんありますので、それが結果につながるまでもうひと頑張り、そしてそれが本県の自力になるまではさらにもうひと頑張り必要なので継続的にやっていく必要があるなと思います。

### 3 閉会